

編集後記：先日，研究会の一環として，青森県深浦町付近で2022年8月に発生した線状降水帯とみられる集中豪雨による被災地を視察してきました。視察したのは被災のおおよそ1年後でしたが，その痕跡はあちらこちに残っており，いまだ復旧作業が行われている状況で，被害の大きさを実感しました。この大雨では青森県深浦町で8月9日に最大日降水量312mmが記録され，これは以前の記録157mm（1940年8月7日）の約2倍に相当し，観測史上1位（1940年統計開始）を更新しました。なお直前の同月3日にも最大日降水量172mm（こちらは歴代2位）を記録しており，この月は月降水量としても歴代1位を更新しています。

この極値更新に示されているように，これまで豪雨災害が比較的少なかった北日本でも近年は大雨が増加傾向にあり，気候変動の影響を受けていると考えられます。一方で，気候変動に対応した大規模な治水対策

の更新には時間がかかります。現状で少しでも人的被害を減らすため，住民や防災担当者の意識向上や，認識しやすかつタイムリーな防災情報提供が期待されています。

本年5月，気象庁が提供する「顕著な大雨に関する気象情報」での線状降水帯発生情報は，最新の予測技術を用いることで，これまでより最大30分前倒しして情報発表されるようになりました。関係者の尽力に感謝するとともに，今後とも本誌や学会等を通じて共有される研究成果をみなさまの研究や業務に役立てていただき，防災情報の精度の向上にもつながっていくことを期待しております。

（林 修吾）

※天気 Twitter（@TENKI_metsoc）で今回撮影した青森県深浦町付近の写真を紹介しております。編集後記と共にご覧ください。